

## 令和3年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■共同研究 4	公益目的事業 17
主査名	根本敏則 敬愛大学教授	
研究テーマ	新しい道路課金方法に関する研究*	
<p>道路利用者に対して、その道路インフラの利用量・道路損傷に応じて負担を求める道路課金（特に、大型車対距離課金）は、財源調達手段として欧州と中心として導入事例が増えつつある。また、従来、道路利用者のうち大型車のみを対象として導入が進められた国において、乗用車も対象として含む包括的な枠組みへの展開が図られつつある。さらに、欧州指令でナンバープレート課金が共通課金方式として認められたことから普及が期待されている。</p> <p>また、道路課金は混雑税（狭義のロードプライシング）としての導入事例も増えている。シンガポール、ロンドン、ストックホルムなどに続き、直近ではニューヨーク・マンハッタンで導入することが決まっている。我が国でも 2020 オリンピック・パラリンピック開催期間に首都高で昼間 1,000 円の追加負担を課すべくシステム改修が行われている。鎌倉は残念ながら、ETC とカメラ課金を組み合わせて課金を徴収するシステムの開発が遅れ、当初予定していた 2020 年中の実施は難しくなった。ただ、引き続き検討をすることとなっている。</p> <p>本研究プロジェクトの目的は、以下の 3 点である。第 1 が、欧米を中心とした諸外国の道路課金、道路課金方法の最新動向のレビューである。第 2 が、道路課金を支える技術開発の動向や標準化の進展のレビューである。第 3 が、わが国高速道路での非接触型の新しい課金方法の検討である。具体的には、ペンシルバニアで導入されている入り口・出口の料金所で確認したナンバープレートで距離を計算し請求する方式の日本への適用可能性を検討したい。</p> <p>以上の目的の実現に向けて、本研究プロジェクトでは、研究メンバーの専門領域にかかわる情報の提供や研究成果の紹介を通じたディスカッションを、国土交通省関係者も交えて積み重ねていくこととしたい。</p>		